

おまんこ専門店

※一部本編と異なる場合があります。

トラック01

真桜 「いらっしやいませ♪ 癒しのコスプレおまんこ専門店『ヴァギナ』へようこそ♪」

真桜 「ご来店は初めてでしょうか？ それでは、当店の説明を私、受付嬢の真桜がさせていただきます♪」

真桜 「まず、当店は前払い制の風俗店になっておりまして、先にこちらのメニューからお好きなおまんこを指名していただきます」

真桜 「その後、もしご希望があればおまんこを彩るコスプレ衣装をお選びいただき、個室で好きなようにおまんこを味わうといった進行になります」

真桜 「では早速、こちらが当店で取り扱っているメスマンこの一覧になります」

真桜 「ふふ♪ いかがですか？ 当店は他の風俗店と違い、女性の顔ではなく女性のおまんこをプロフィール写真として掲載させていただいております」

真桜 「メニューには多種多様なおまんこが写っております、お客様がお気に入りのおまんこを選べるよう、各おまんこの詳細な情報も記載されております」

真桜

「例えばこちらのおまんこ。まだ使い込まれていないサーモンピンクのパイパンまんこになっておりまして、潮吹きの高距離は最長3メートル。クリのサイズは最大2センチ。おまんこから子宮到達までは2センチのザコザコおまんことなっております♪」

真桜

「ちょこっと子宮を突けばオホ声上げていってしまうので、セックス初心者のお客様にはオススメの一品です♪」

真桜

「一方、そちらのおまんこはマン汁の分泌量が当店一のとろとろおまんこです」

真桜

「ただ、あまりにマン汁が多すぎるせいか、常日頃から愛液がたまり、マンカスだらけのくっさいビラビラまんこになってまして、少々人を選ぶメスとなっております」

真桜

「しかし世の中にはこのようなくっさいマンカスビラビラまんこを好まれるお客様も多いので意外と需要があるんですよ？ ふふふ♪」

真桜

「そ・し・て♪ お客様♪ 本日は運がいい事に、年に数回しか入荷しない超激レアおまんこである処女マンコが入りまして♪」

真桜

「こちら、つい先ほど当店のおまんこ研修を修了したばかりのぷにぷにパイパンロリまんこになります♪」

真桜

「激レアという事もあり、通常よりも値が張るのですが……いかがでしょう？ 年齢が桁になったばかりの、無垢で綺麗なキツキツ処女まんこ♪ この機会にご賞味されていきませんか？」

真桜

「おや♪ お気に入りのおまんこが決まったのですね♪ では、本日はどちらのおまんこでお楽しみになりますか？」

真桜

「はい♪ はい……はい……って、ふえ？ え？ あ、あの……すみません。もう一度おっしゃっていただけませんか？」

真桜

「今、私の名前が呼ばれた気がしましたので……あはは♪ 聞き間違えてしまい申し訳ありませんでした♪」

真桜

「では改めて、どちらのおまんこに致しますか？」

真桜

「って、え？ えええ……??」

真桜 「あ、あのう……お客様？ 真桜です。準備が整いましたのでお部屋、入りますね？」

真桜 「お待たせしました……本日は数あるおまんこから私、真桜のおまんこを、ご指名いただき、誠にありがとうございます」

真桜 「って、あはは……たどたどしくて申し訳ありません。何分受付嬢としてしか仕事をしたことがありませんので……至らぬ点多いかと思いますが、ご容赦願えればと思います」

真桜 「それにしても……ふふ♪ まさか受付嬢のおまんこを指名するだなんてお客様も好きものですね♪」

真桜 「だって、私のおまんこはメニューに載ってないんですよ？ これでもしお客様好みのおまんこでなかったらどうするおつもりなのですか？」

真桜 「まあ！ ふふ♪ 私のおまんこならどれだけ臭くても愛せるだなんて♪ そんな事言われたのは初めてです♪」

真桜 「それに……これ♪ 追加料金を払ってこんな素敵なコスプレ衣装まで着させていただいで♪」

真桜 「これってチャイナドレスですよ？ 私、こんな素敵なドレスを着たのは初めてで……」

真桜 「ああ♪ 今からこんなスケベな衣装でおまんこを愛していただけのるんですね♪」

真桜 「ああ……私い……♪ すっごい興奮しちゃってえ♪ こゝこ♪ おまんこ♪ 濡れてきてるんです♪」

真桜 「実は、店のキャストは、お客様が希望しない限りはいつでもどこでもおまんこを出せるよ、常にノーパンでいる事を義務付けられてまして♪ 興奮しておまんこが濡れるとすぐメスの匂いをまき散らしちゃうんです♪」

真桜 「まあ、私は元々受付嬢ですけど……んん♪ 意外とキャストとしての才能もあったようで♪ はあ、はあ♪ おまんこからトプトプスケベ汁が垂れて床を汚してるんですう♪」

真桜 「まだ触ってもいないのに、おまんこくぱあって臭い花びら開いてえ♪ ああん♪ メスの香りでお部屋を満たしてしまいますう♪」

真桜 「ふふ♪ 今からお客様におまんこ犯されてグロマンにされるのが楽しみですう♪ はあ、はあ♪ ん、はあ、はあ……♪」

真桜 「さあお客様♪ 今宵は最高に気持ちいいおまんこナイトにしましょうね♪」

真桜 「では早速……まずは私のおまんこをご覧になっていただきたいので、床に膝立ちしていただけますか？」

真桜 「はい、そうです♪ 目線がおまんこの高さになるようにお座りください♪」

真桜 「じゃあいきますね〜♪ チヤイナドレスの前掛けを……ぴら〜♪」

真桜 「あん♪ やあ♪ 見られちゃいましたあ♪ マン汁でべとべとのスケベおまんこお♪ んん♪ お客様の目の前にい♪ ああ♪ 臭いマンカスの香りを嗅いで貰ってますう♪」

真桜 「ふう〜♪ ふう〜♪ ん、どうでしょうか？ 私のおまんこ、変ではありませんか？」

真桜 「キャストとしてお見せするつもりはなかったのですおまんこの毛を整えておらず、マンコに溜まった垢がマンカスになってしまい、とっても汚いかもしれませんが……」

真桜 「って、あら？ あらあらまあまあ♪ お客様ったら♪ おちんぽ……膨らんでおりますよ？」

真桜

「そんなに私の臭いおまんこに興味があるんですか？ ああ♪ 鼻を鳴らしながらおまんこに夢中のお客様♪ とっても可愛いです♪」

真桜

「はあ、ん、はあ……♪ お客様、どうでしょう？
ここで一つご相談があるのですが……」

真桜

「もしよろしければ、本日は当店自慢のおまんこメニュー……おまんこフルコースをご賞味してみませんか？」

真桜

「はい♪ こちらキャストが気に入ったお客様にのみお伝えする裏メニューになっております♪」

真桜

「あ、追加料金等は発生しませんので安心してください♪ これは私をご指名してくれたお客様にお返ししたいという、感謝の気持ちですから♪」

真桜

「どう、ですか？ 私のおまんこフルコース、味わってくれますか？」

真桜

「ああ♪ はい♪ ご注文ありがとうございます♪
精一杯、おまんこご奉仕させていただきますね♪」

真桜

「それではこのまま……どうかおまんこスープである、私のマン汁を「賞味してくださいませ♪」

真桜

「ふふ♪ もちろん、器に注いだりといった無料なマネは致しません♪」

真桜

「直接私のおまんこにむしゃぶりついて、子宮の奥からおまんこスープを……くっさいマンコプールで何時間も煮込まれた雌のマン汁を♪ 満足いくまでちゅうちゅう吸ってください♪」

真桜

「さあ♪ もっと顔をおまんこに近づけて……はい♪ 漏らしたてホカホカのおまんこスープ、どうぞ♪」

真桜

「あ、ひゃん♪ あ、ああ♪ お客様のお口が、ん♪ おまんこに来ましたあ♪ ん、ん♪ はいい♪ そのままあ♪ ん♪ れろれろしてください♪」

真桜

「あ、ああん♪ やあ♪ お客様あ？ どうですかあ♪ 真桜のおまんこスープ♪ 美味しいですか？」

真桜

「ん、きゃん♪ ふふ♪ んん♪ お客様ったらあ♪ おまんこに夢中でえ♪ あ♪ 聞こえてない様子……ん、あん♪」

真桜

「あ、あああ♪ い、いいですう♪ はい♪ 絶え間なく零れるおまんこスープを♪ んん♪ じゅるじゅるってえ♪ 吸ってください♪ はあ、はあ……♪ ん、あ、や、ああん♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん♪ どうぞお♪ マン汁スー
プの付け合わせに♪ 白く固まったマンカスも
どうぞ♪」

真桜 「臭いマン汁とマンカスのセットメニュー♪ ご賞味くださいませ〜♪」

真桜 「ん、んん！ あ、あ、ああ……あ、ああん♪
やあ……あう……う、うう……あ、ひや
んっ!？」

真桜 「はあ、はあ♪ やあ♪ お客様あ♪ そこは、ん
ん♪ そこはダメですう♪ だつてえ♪ そこク
リい♪ クリトリスですからあ♪ んん♪ ひや
うん!」

真桜 「んん♪ ああ♪ やあ♪ らめれすよお♪ クリ
からはあ♪ おまんこスープ出ませんからあ♪
ん、んん♪ マン汁の穴は〜♪ もつと下です〜
♪ んん♪ あ、ああん♪ やあ♪」

真桜 「ん、や♪ んあ、あ、あううう♪ んあ♪ あ、
あ、あ、あああ♪ んん♪ おまんこお♪
き、気持ちいい♪ あああ♪ おまんこお♪ お
まんこおまんこお♪」

真桜 「ああん♪ お客様あ……♪ どうかあ……おまん
この周りに♪ 肉厚のビラビラもお♪ 鳥肌が
たった土手肉も〜♪ お口でハムハム味わってく
ださいい♪」

真桜

「ん、んふう……♪ あ、ああ♪ それですう♪
んん♪ はいい♪ そこお♪ はあ、はあ♪ オ
ナニ―しすぎて黒ずんだ下品なビラビラ♪ イ
キすぎてびろ〜んて伸びた臭いビラビラ♪
もつと引っ張ってくださいい♪」

真桜

「ふう、ふう、ふう、ふう♪ おお♪ お、おお〜
♪ んふう〜♪ やっ、きやん♪ あ、あ、ああ
♪ んおお♪ お、お、お、おお♪ おっ
ほおお……♪ んふう♪ はあ、あああ……♪」

真桜

「ふう、ふう〜♪ んん♪ お、おおお♪ おま
んこお♪ やあ♪ ら、らめえ♪ 異性に弄られ
るの初めてでえ♪ んん♪ あ、ああん♪
やっ！ ダ、ダメえ♪ こんな早くう、んん♪
おまんこ痙攣しちゃってえ♪」

真桜

「はあ、はあ、ああ♪ やっ、あ、あうう……♪
これえ♪ オナニ―なんか比じゃない……お客様
におまんこ味わってもらうの気持ちよすぎれすう
……♪」

真桜

「はあ、はあ、んう……あうう……♪ お、お客
様あ♪ も、申し訳ありません！ お、おまん
こお♪ もう、んん♪ イっちやいますうう♪
おまんこの穴からあ♪ 特製スープう♪ 塩味強
めのおしっこ汁出ちやいますうう♪」

真桜

「あ、あああ♪ やあ♪ おまんこダメええ♪ んん♪ やあ♪ あ、あ、あ、あああ♪ クリダメれすう♪ おまんこお♪ あ、あ、あああ♪ ああああ♪」

真桜

「んやあ♪ も、もうイキますう♪ あ、あ、あ、ああ♪ イきゅ♪ んん♪ イきましゅうう♪ おまんこイキましゅうう!!」

真桜

「んん！ イクうっ！ もうイぎゅう！ ああ！ あ、あ、あ、ああ！ イクイクイクイクうう!! イっきゅうううううう!!」

真桜

「んっ！ きゅうううううううううう!!??」

真桜

「んああ……♪ あ、ああ♪ はひい♪ あ、あ、あ、ああ……♪ お、おまんこお♪ ん！ やあ♪ おまんこイきゅう♪ イってましゅうう♪」

真桜

「少し舐められただけなのに……♪ んふう♪ はひい……♪ だらしくおまんこからあ……や……ああん♪ お漏らしい♪ おまんこお漏らしい気持ちいいれしゅう……♪」

真桜

「はあ、はあ……♪ お客様♪ んん♪ もっと♪ もっとしやぶってくださいい♪」

真桜

「んん♪ すぐいっておしっこ漏らしちゃう雑魚雑魚まんこにっ♪ んん♪ お客様のぺろぺろ追撃い♪ ああん♪ もっとくださいい♪」

真桜

「ん♪ はあ、はふう♪ 私もお♪ んん♪ おまんこからマン汁お替り出しますからあ♪ はい♪ 臭いマンコからおまんこスープ♪ おしっこ穴から潮味スープ♪ んん♪ あっくんってしてくださいい♪」

真桜

「はあ、はあ……♪ んん♪ さあお客様あ♪ あっくん♪ おまんこスープ♪ あっくん♪」

真桜

「ああ♪ お客様あ♪ んん♪ まるで雛鳥のようにお口を開いて♪ やあん♪ とっても可愛らしくて素敵ですう♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん♪ お客様あ♪ もっとお♪ もっとおまんこの奥まで舌を伸ばしてくださいい♪」

真桜

「お客様のザラザラした舌でえ♪ ちっちゃいおまんこ穴捲ってマン汁吸い出してえ♪ 下品に漏らしちゃう雑魚マンコにお仕置きしてくださいい♪」

真桜

「はあ、はあ♪ あああ♪ んん♪ じゆるじゆるう♪ おまんこじゆるじゆるイイれす♪ ああ♪ あ、ああ♪ イイれすう♪」

真桜

「こんなにおまんこ吸われるのが気持ちいいなんてえ♪ んああ♪ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、ああ♪」

真桜

「や、やあ♪ ま、またイキましゅっ！ ん、ん！ ああ♪ またイキましゅう♪ おまんこイキましゅう♪」

真桜

「あ、あ、あ、ああ♪ イ、きゆう！ おまんこイキゅ！ おしっこ出ましゅう♪ はあ、ん、ああ♪ おお♪ イクイクイクイクうう！ イっきゅううううう！…！」

真桜

「ん、きゆううううううう………！」

真桜

「んあああ♪ やっ♪ あ、あ、ああ……♪ やあ……ダメえ……♪ おまんこスープう♪ お、おお♪ おしっこお漏らし止まらないれしゅう……♪」

真桜

「ん、んん！ やあ！ あ、あ、ああ♪ やああ♪ は、はひゅうううう♪」

真桜

「さ、最高れしゅうう♪ お客様の舌使いい♪ んん♪ れろれろってえ♪ ああん♪ お客様の「く」く喉を鳴らす音もお♪ 聞こえてきますう♪」

真桜

「あ、ああ♪ は、はひゅうう♪ ん、ん♪ はいい♪ どうぞお♪ まだおまんこから溢れてきますから♪ ゆっくり飲んでえ……♪ んん♪ はあ、はあ♪ 味わってください♪」

真桜

「ほくらあ♪ おまんこくくく♪ おまんこくくくくうう♪ おまんこペロペロ♪ おまんこペロペロくくく♪」

真桜

「ん、ん♪ はあ、はあ、はあ、はあくく♪ ん、ん♪ そろそろお……おまんこスープはこのくらいに、あん♪ しておきましようか♪」

真桜

「お客様？ 一旦お口から離しますねえ♪ ん、しよ……つとお♪」

真桜

「ふうううう♪ ふふ♪ お客様ったら、口元がマン汁とおしっこでベトベトですね♪」

真桜

「そんな時は……ん、ありました♪ はいお客様♪ こちらおしぼりになりますので是非お使いください♪」

真桜

「それにしても、まさかあんなに激しくおまんこを求めて下さるとは思いませんでした♪ 私のおまんこ、本当に気に入ってくださいだったのでね♪」

真桜

「そこまで気に入られてしまっっては、私も、もつと、もくくと、サービスしてあげなくなっちゃいます♪」

真桜

「な・の・で♪ お顔を吹き終わったらすぐ♪
おまんこを使った特別なご奉仕♪ させていただ
きますね♪」

トラック03

真桜 「お客様♪ お次は大人気メニューである、おまんこを贅沢に使った耳舐めご奉仕になります♪」

真桜 「まずは私がベッド上で㊦字開脚して、おまんこを、くぱあ〜♪っとしますので、そのまま」覧なってください♪」

真桜 「はい♪ ではおまんこを左右に〜♪ くぱあ〜♪」

真桜 「ふふ♪ 先ほどぺろぺろしていただいた事もあり、すっかり赤く、テカテカと輝いて……♪ ああん♪ 自分で言うのもあれですが、とっても厭らしいおまんこですね♪」

真桜 「それに……すん、すんすん♪ すうう〜、はあ〜♪ はふうう〜♪ おまんこから蒸れた臭い匂いが広がって♪ ああ♪ メスのフェロモンがお客様のおちんぽを欲しがって媚びているのが分かります♪」

真桜 「ああ〜♪ とっても臭くて下品な、メ・ス・まん・♪」

真桜 「お客様♪ どうか、このままおまんこを枕にする感じで横になってください♪」

真桜 「はいそうです♪ おまんこ枕とはいわば膝枕のおまんこ版♪」

真桜 「お客様のお耳をぴったりおまんこにくっつけておまんこの鼓動を直に感じていただき、もう一方のお耳を私が舐める……それがおまんこ耳舐めご奉仕なんです♪」

真桜 「さあ遠慮なさらず、思いっきりおまんこを枕にしてください♪」

真桜 「あん♪ ふふ♪ お客様、いかがですか？ 私の
おまんこの寝心地は♪ あったかいですか？
いやらしいですか？」

真桜 「そ・れ・と・も♪」

真桜 「マンカスがお耳にくっついて♪ 臭い香りがお
耳にこびり付いて♪ 気持ち悪いですか？」

真桜 「今も、んん♪ 私の呼吸に合わせておまんこが縮
んだりい、くぱあって広がったりい♪」

真桜 「おまんこの鼓動がお耳に伝わって♪ 心なしか
安心感といますか、何か懐かしい感じがしませ
んか？」

真桜 「人間、生まれる前は皆誰しもおまんこの中、子宮
で長い時間眠っていましたからね♪」

真桜

「きつと、こうやって直接お耳でおまんこを感じる
と、子宮で眠っていた時の事を思い出して安心し
ちやうんだと思います♪」

真桜

「さあお客様……そのままゆっくりと目を閉じて
……おまんこに身を委ねてください……ゆっ
っくり深呼吸して……リラックスして……
……」

真桜

「んっちゅっ ちゅっ はぶっ、ちゅっ ちゅ、
んちゅ……♪ ちゅっ ちゅ……ちゅっ」

真桜

「ふふっ お耳おいしい♪ んっちゅっ ちゅ、
ちゅっ いいですよっ♪ そのままっ♪ んちゅ
っ ちゅ、ちゅっ♪ ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ
っ」

真桜

「私のおまんことお口に挟まれながらっ♪ ちゅっ
れるれるっ♪ ふふっ いっぱい癒されてくださ
いねっ♪ ちゅ、ちゅっ♪ ちゅぶっ♪ ん
ちゅ、れる、ちゅ、ちゅっ♪ ちゅばあっ♪
はあ、はあっ」

真桜

「あんっ やあっ ダメですよっ♪ 耳キスされた
からっっえっ♪ んっ♪ そんな体震わせたらあっ♪
ああんっ やあっ お客様の髪がおまんこに擦
れてえっ♪ またくっさいマン汁トプトプ出ちゃい
ますっ♪」

真桜 「んん♪ お客様のお耳、臭い耳カスが沢山たまつて〜……ああ♪ なんて臭いお耳なんでしょう♪」

真桜 「舌の上に散らばった耳カスが臭すぎて〜♪ お口が激臭でピリピリ痺れちゃいますう♪」

真桜 「ああ〜む♪ ん♪ ぐく……ぐく……ぐく……ぐく……ぐく……ん♪ ふはあ♪ はあ、はあ♪ んふふふ〜♪ ああ♪ 叔父様の耳カス美味しい〜♪」

真桜 「はあ、はあ♪ んん、お客様〜♪ もっとお♪ もっとこの黄色くてくっさ〜いお耳のカス食べさせてくださいい♪ んん♪ あ〜〜……む♪」

真桜 「はあ、はあ♪ やあん♪ 堪らないですう〜♪ ん〜ちゆ♪ れ〜♪ はぷっ！ れろれるろれるろ♪ れ〜♪ れるれるろ♪ んん♪ ちゆ、ちゆ、ちゆ、ちゆう〜♪ ふはあ♪ はあ、はあ♪」

真桜 「あん♪ ふふ♪ お耳真っ赤にして恥ずかしがるお客様、とっても可愛いです♪」

真桜 「それに〜♪ ん〜ちゆ♪ お客様のそ〜こ♪ おちんぽもすっかり勃起なされて〜♪」

真桜

「ああん♪ 必死に勃起を我慢しようとするお客様のお顔♪ 可愛くて可愛くてえ♪ はあ♪ お客様あ♪ んん♪ どうか仰向けに、私と目が合うようにお顔を動かしてくださいませえ♪」

真桜

「お客様♪ んん♪ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪
ちゅうううう♪ ちゅ♪ はむっ♪ ちゅ……
ちゅ♪ ちゅぷっ、んん♪ ちゅ♪」

真桜

「はふう♪ すみません♪ 私、我慢できずにキスしちゃいました♪」

真桜

「はあ〜♪ キスがこんなに甘いなんて……♪
はふう〜♪ んん♪ちゅ♪ ふふ♪ おまんこが喜んでお漏らしてますう♪」

真桜

「って、ふえ？ あ、あはは……そうです。実は私、キスするの初めてで……でも昔から憧れだけはあったので、是非お客様に私のファーストキスをあげたい……そう思ったらもうキスしちゃってましたあ♪」

真桜

「あのう……お客様はお嫌でしたか？ 私なんかのファーストキス、いりませんでしたか？」

真桜

「あん♪ もっとして欲しいだなんてえ♪ そんなに可愛くおねだりされては、私も、もっとも〜と、サービスしてあげたくなくなってしまいますう♪」

真桜 「お客様♪ いっぱいキスして私の涎、飲ませてあげますね♪」

真桜 「ん〜ちゅ♪ れりゅ♪ んん♪ ちゅ♪ はぷっ……ちゅ♪ れろれろ……♪ ん〜ちゅ♪ ちゅ、れ〜♪ れりゅ♪ ちゅ、ちゅ、ちゅうう〜♪」

真桜 「んぷっ♪ じゆる♪ んちゅ♪ れ〜ろれろれろ♪ んちゅ♪ じゆる♪ ん〜ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れろ♪ んちゅ♪ じゆる♪ んちゅ♪ ちゅぷぷっ！ ちゅ♪ ん、ちゅ……ちゅ♪」

真桜 「はあ、んちゅ♪ ちゅ、ちゅう♪ はふう♪ んん♪ お客様の涎と私の涎が混じってえ♪ 涎の橋が私達を繋げてくれてますう♪ はあ〜♪ これがベロキス♪ 恋人同士のラブラブキスなのですね〜♪」

真桜 「つて、申し訳ありません！ キャストである私なんかお客様の恋人だなんておこがましい事を言ってしまうって……」

真桜 「ああ……本当に申し訳ありません……お詫びになるか分かりませんが、反対のお耳もいっぱい気持ちよくしてあげますので、また私のおまんこを枕にしてくださいませ」

真桜

「ふうふうふう♪ ふふ♪ こちらも沢山耳カスがたまって臭い香りがします♪ ふふ♪ 安心してください♪ 私が全部舐めとってさしあげます♪」

真桜

「は〜む♪」

真桜

「んん♪ お客様あ♪ もっろお♪ もっろ私の舌を感じてくだひゃい〜♪」

真桜

「んふふ♪ くっさい耳カスまた取れましたね〜♪」

真桜

「今度は〜……お口の中で涎と混ぜ混ぜするみたい
に〜……ん〜、くちゆくちゆくちゆくちゆくちゆく
くちゆくちゆくちゆ〜ん、ご〜……ご〜……ご〜
く……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪」

真桜

「ああ♪ 涎と混ぜった臭い耳カスう♪ ねばあ
〜っとして喉に絡みついで〜♪」

真桜

「んん♪ やあん♪ こ〜こ♪ 喉の奥引っかかり
てますう♪」

真桜

「はあ、はあ♪ お客様あ♪ お耳で熟成された
くっさ〜い耳カスう♪ もっと食べさせてくださ
い〜♪」

真桜

「お客様あ♪ そんなにおまんこに体重を預けられるとお♪ ああん♪ 子宮が程よく圧迫されてえ♪ はふう♪ とっても気持ちいいです♪」

真桜

「んああ♪ もっとお♪ もっと頭をおまんこに押し付けてください♪ おまんこでお客様の事感じさせてください♪」

真桜

「んん♪ おまんこお♪ おまんこひくひくううう♪ 止まんにやいい♪ んふう♪ んちゅ♪ じゅるる♪ じゅるるるる♪ んうう……ちゅ♪」

真桜

「んううちゅ♪ れううう♪ れろれる♪ んちゅ♪ おちんぽおしゅきい♪ んちゅ♪ れううう♪ れろれるろれるお♪ んん♪ ちゅ、ちゅうううう♪ ちゅ♪」

真桜

「恥ずかしくないでください♪ んうう♪ れろれるろれる♪ れろれるろれるお♪ はあ♪ んううちゅ♪ れろれるろれるお♪」

真桜

「ずうううととお♪ お耳い♪ んううちゅ♪ ちゅ、れろれるろれるお♪ れうう♪ れろれるお♪ んん♪ 舐めてあげますからねえ♪」

真桜

「はむ♪ ちゅ♪ ちゅ……れろ、ちゅ♪ れううろれるろれるろお……♪ じゅるる♪ ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「はふう♪ では、おまんこ耳舐め枕は「のくらしいにしてえ……♪」

真桜

「次はお客様の勃起おちんぽお♪ たろっつぷり癒してえ♪ 気持ちよろくしてさしあげますね♪」

トラック04

真桜

「さあお客様♪ お次は私の口まんこをご主人様のおちんぽで味わっていただきます……って、あ、あら？ お客様？」

真桜

「え？ 喉が渴いた、ですか？ まあ、それは大変です！ 脱水症状になってしまったらおまんこご奉仕どころではありませんもんね！」

真桜

「すぐ傍のテーブルにミルクティーがありますので是非お飲みください！」

真桜

「え〜っと……あ、これです……！ これこれ♪」

真桜

「はい、市販のペットボトルに入ったミルクティーになります。どうぞこちらを……」

真桜

「あ、でも……どうせなら……」

真桜

「あのう……お客様？ このままペットボトルで渡しても良いのですが、せっかくおまんこ専門店にいらしたのですし、当店一押しプレイ……おまんこミルクティーを味わっていきませんか？」

真桜

「はい♪ こちらウチの名物メニューでして……」

真桜

「こうやって……おまんこくぱあ〜って広げながら、ペットボトルの先を中に入れてえ……おまんこにミルクティーを注ぐと……」

真桜 「ほくら、お客様♪ おまんこにい、ん♪ ミルク
ティーを……とぶとぶ♪ とぶとぶう♪」

真桜 「ん、やあん♪ 興奮して火照った私のおまんこ、
ミルクティーで冷やされて……んん♪ はあ、
はあ……もう少し待っててくださいね。あと少し
でおまんこに入りきりますから♪ とぶとぶ♪
とぶとぶう♪」

真桜 「ん、はあい♪ お待たせいたしました♪ こちら
真桜特製のおまんこミルクティーになります♪
テーブル上にストローがあるのでおまんこに突き
入れてください♪」

真桜 「つて、あん♪ お、お客様あ♪ そこはおしっこ
の穴ですよお……もう……♪ おまんこのあゝな
ゝはゝ……こっちです♪」

真桜 「はい♪ ひくひくした穴……子宮に続くおまんこ
穴に、ストローを……あ、ああ、や、き、きて…
…んあ♪ あ、あああん♪」

真桜 「はあ、はあ……す、すみませんお客様。おちんぼ
を入れられた訳でもないのにしたくない声を上げ
てしまつて」

真桜 「つて、やあん♪ そんな奥にストロー入れないで
ください……そこはまだ処女膜がありますので
……」

真桜 「ん、あ、ひゃんっ!? あ、やあ♪ はあ、んん♪ お客様あ♪ 処女膜ツンツンして遊んじゃダメですう♪」

真桜 「お楽しみは最後のメインディッシュにとつとかな
いとですから♪ 今は我慢してくださいね?」

真桜 「ふふ♪ はい♪ 我慢できて偉い偉いです♪ そ
れでは、今は私のエッチなおまんこジューズ♪
吸って楽しんでください♪」

真桜 「ん、は、はいお客様♪」「く」「く♪」「く」「く」う♪
ん、はあ、はあ……ふふふ♪ 喉を鳴らしなが
ら無我夢中にお飲みになって♪ ああ♪ 良い飲
みっぷりですう♪」

真桜 「慌てないでいいですよ? おまんこは逃げません
から♪ ゆっくり、マン汁が混じった真桜特製お
まんこミルクティー♪ 沢山味わってください
♪」

真桜 「はあ、はあ、ん、はあ、はあ……んあ♪ や、は
ふう……♪ ん、ああん♪ やあ♪ おまんこの
中、どんどん吸われていますう♪」

真桜 「ん、あ、ひゃん♪ あ、ああ♪ んん♪ はあ、
はあ……お客様♪ ん、はあ♪ おまんこちゆ
くちゆく♪ おまんこちゆくちゆく♪」

真桜

「ささ♪ 後少しですよ？ はい、おまんこちゆくちゆく♪ おまんこちゆくちゆく♪ 愛液も一緒に、ちゆくちゆく♪ おまんこちゆくちゆく♪」

真桜

「あらら♪ ふふ♪ 全部飲み終わっちゃいましたね♪ いかがでしたか？ 私のおまんこミルクティーは？ おいしかったですか？」

真桜

「くっさいマン汁が甘くいミルクティーと混ぜた……とっもおいしかった……と……はううう♪
そ、そんな風に言われては、ちょ、ちょっと照れてしまいますね♪」

真桜

「私自身、こういった事をするのは初めてでしたし、おまんこの味見もしておりますでしたので、少し……いえ、かなり心配ではあったのですが……ふふ♪ お客様に気に入っていただけ嬉しいです♪」

真桜

「嬉しくて嬉しくて……お客様にもっと喜んで欲しい……もっと私の全てを味わって、楽しんで、楽しんで欲しい」

真桜

「そう……お口も、胸も、脇も、おへそも、太もも、おまんこも♪ 今の私はぜくんぶお客様だけのものですから♪」

真桜

「だから、このまま私の、厭らしくてエッチなおまんこご奉仕、全部堪能して頂きますね♪」

トラック05

真桜 「喉も潤した事ですし、次は私のくっささういおロマンコをお楽しみください♪」

真桜 「ほくら♪ お客様？ 見てください、私のお・く・ち♪ やわらかうい唇を開けると……はあううう♪ ふふ♪ 見えましたか？ 涎塗れの舌に、奥で震える喉チンコ♪」

真桜 「今からここにお客様のちんぽを入れるんです♪ ぷるぷるの唇を抜けて、ザラザラしたくっささい涎塗れの舌でおちんぽ擦って、最後は亀頭で喉チンコを震わせて、奥にゴール♪」

真桜 「この一連の動作を繰り返して、おロマンコを堪能して貰います♪」

真桜 「勿論、楽しみ方はお客様の自由自在です♪ ゆっくり長く堪能したければ口の浅いところで亀頭をコスコスしたり、激しくロマンコ全体を堪能したければ、私の頭を掴んでオナホのようにガンガン突いてください♪」

真桜 「私はどんな激しいプレイでも拒否しませんから♪ はいそうです♪ NG無しのなんでもありですよ??」

真桜 「過去には」か月洗わなかった、おしつことチンカス塗れのくっさいちんぽを啜えさせられ吐き散らかしたキャストもいますしね♪」

真桜 「まあ最終的に、その子はくっさいチンカスちんぽの虜になり、今では不潔なおちんぽ専用肉便器として今も当店の便器に縛り付けられてますけど…」

真桜 「…」

「つて、すみません。話が逸れてしまいましたね。とにかく、私のおロマンコでいっぱいお客様のおちんぽ気持ちよくしてさしあげますので、ズボン、失礼しますね♪」

真桜 「ん、わあ♪ お客様つてばおちんぽとっても大きいですね♪ はあ〜♪ ああん♪ お客様の勃起おちんぽお♪」

真桜 「今すぐおまんこを犯したがって♪ ふふ♪ とっても凶悪おちんぽですね♪」

真桜 「でも〜♪ チンポの先は皮に隠れて〜♪ ああん♪ 見た目に反して照れ屋なお・ちん・ぽ♪ はあ〜♪ お客様のおちんぽ可愛い〜♪」

真桜 「今皮から出してあげますからね？ ん、こーやって…唇でチン皮を挟んで〜」

真桜

「んちゅ♪ れるるれろれろ♪ れるるる♪ れ
ろれろれろれろるるる♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪
ちゅぷっ！ んちゅ♪ はぷっ！ んぷっ！
じゅる♪ れろれろ♪ れるるる♪ んちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「ぷはあ♪ はあ、んん♪ んるるちゅ♪ おちん
ぽお♪ とつてもおいしくて、臭くって♪ お客
様、見てください♪ 私の舌♪」

真桜

「ん、れるるる♪ んむ♪ 見えましたか？ は
い♪ 私の舌にお客様の白いチンカスがいっぱい
乗って、苦くてエグイ味が伝わってくるんです
♪」

真桜

「このチンカスを……んちゅ♪ ぐちゅぐちゅぐ
ちゅぐちゅ♪ んん……ごく、ごく、ごく、ご
く♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪ んああ♪ チン
カスを涎と混ぜ込んで飲むとお♪ とつてもおい
しくてえ♪ 発情が抑えきれません♪」

真桜

「はあ、はあ♪ お客様あ♪ もっとチンカス舐め
させてください♪」

真桜

「んるる♪ れるるる♪ れるるる♪ れろれろ
れろれろるるる♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅ
ぷ♪ れろれろ♪ れるるるれろ♪ れろれ
ろれろれろお♪」

真桜

「ん〜ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れろれろお♪ チンカスう♪ くっさいチンカスう♪ もつとお♪ ちんぽお♪ ちゅぷっ♪ んちゅ♪ れろれろお♪ れろれろれろお♪」

真桜

「ん〜ちゅ♪ れ〜ろれろれろ♪ はぷっ！
んちゅ♪ ちゅ、ちゅう〜♪ ちゅ♪ おちんぽの段差を〜♪ 舐め回すようにい♪ ん、ちゅ〜♪ れろれろお♪ れ〜ろれろれろれろれろお♪ れ〜ろれろ♪」

真桜

「はぷっ！ んちゅ♪ ちゅ、ちゅう〜♪
ちゅ、ちゅ♪ 先端もお♪ おしっこの穴を舌
でえ♪ れろれろれろお♪ んちゅ♪
ちゅ、ちゅう〜♪ ちゅ♪ れ〜ろれろ♪ ちゅ
ぷっ！ んちゅ♪ れろれろお♪ れろれろれろ
れろお♪」

真桜

「ん〜ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ふふ♪ お客様つ
たら♪ まだ舐め始めたばかりなのに、もうイキ
そうな顔をされて♪」

真桜

「本番はまだこれからですよ？ 次は、私のお口全
体を味わっていたくださいますから♪」

真桜

「さあ♪ いきますよ〜？ ん、はあ〜〜む♪
じゅぷっ！ んちゅ♪ じゅるる♪ じゅる！
んぷっ！ じゅりゅりゅ♪ じゅりゅりゅりゅ
りゅ〜〜♪」

真桜

「あゝむっ♪ んじゅっ！ じゅぷぷっ！ ん、
ちゅ♪ じゅりゅりゅりゅ……じゅるるるるる
ゝゝ！ んじゅっ！ じゅりゅりゅりゅっ！ れ
ろれろれろれろ……れろれろれろれろれろ…
…じゅりゅりゅりゅりゅゝゝ♪」

真桜

「ん！ んぷっ！ ちゅ♪ じゅるっ♪ じゅぷ
ぷっ！ ん、ちゅ♪ れろ、れろれろ♪ れ
りゅっ！ ちゅ♪ ちゅぷっ！ ん、ちゅ、ちゅ
ぷ♪ ちゅ♪ んちゅ♪」

真桜

「んん♪ おちんぽお♪ ちゅ♪ れろ、ろれろ
れろれろ……んん♪ ちゅ♪ チンカス、ん♪
ごく♪ ぷはっ！ はあ、んゝちゅ♪ れろれろ
れろれろゝゝ♪ チンカスう♪ んちゅ♪ れろ
♪ れろれろ♪ ちゅ♪ んん♪ もっとお……
ちゅ♪ 綺麗に……れゝゝ♪ んぷっ！ ん
じゅっ！ じゅるるるゝゝ♪」

真桜

「おちんぽお♪ んちゅ♪ じゅる♪ じゅるるる
♪ んちゅ♪ おちんぽお♪ チンカスおちん
ぽお♪ ん、ん、ん、ん♪ んちゅ♪ じゅぷ
ぷっ！ じゅるじゅる♪ あゝむっ♪ れろれ
ろお♪ ちゅぷっ！ んちゅ♪ れゝゝろれろれ
ろれろお♪ れろれろれろれろれろお♪」

真桜

「んぐ！ ん！ んぶっ！ ん、んん♪ んぐ……
「ぐく、」ぐく、」ぐく、」ぐく……んぶっ！ お「っ！
じゅぶっ！ じゅ、んん！ 「ぐく、」ぐく、」
ぐく、」ぐく……」

真桜

「ん！ んんんん！ んぶっ！ ぶぶぶ！ ぶ
はあっ！！ はあ、はあ、はあ、はあ……ん、
すうう……はあ……はあ、はあ、はあ……
はあ……」

真桜

「んん、けほっ！ けほけほっ！ んじゅっ！
じゅるるる！ ちゅぱあっ！ はあ、はあ、
はあ、はあ……ん、ぶはあ♪ はふうう♪ お客
様のおちんぽミルク、まだ喉奥に絡んでえ♪ ん
ん♪ 「ぐく、」ぐく……すうう…… はあ……
」

真桜

「ふふ♪ とっても激しくてエッチな腰使いでした
♪ 初フェラでこんな、女を人と思わない、オナ
ホのように使っていただけなんてえ♪ ああん
♪ 一匹のメスとしてこの上ない喜びですう♪」

真桜

「はあ、はあ……ああ♪ このままあ♪ どうか、
私をオナホだと思って、最後のご奉仕……おまん
こセックスをお楽しみください♪」

トラック06

真桜 「ではお客様♪ いよいよ最後の「奉仕、おまんこセックスのお時間です♪」

真桜 「って、まあ♪ お客様だったら♪ さっきあれだけ私のお口まんこにぴゅっぴゅしたのに、もう勃起なさって♪」

真桜 「先っぽから新しいチン汁も垂れて、おまんこ欲しいよお……って言ってるみたいで、ああん♪ 可愛すぎますう♪」

真桜 「って、私も人の事言えないんですけどね♪ ほんら、分かりますか？ 私のおまんこ♪ ふふ♪ ドレスの下ですっかり発情しちゃって♪」

真桜 「さあ♪ 耳を澄ませて聞いてください♪ こゝこゝ♪ おまんこの厭らしい音♪」

真桜 「はあ、はあ♪ ああ♪ マン汁止まりません♪ はあ、ん、あん♪ こうやってえ、指でかき出すだけでえ♪ ん、ああん♪ 天然のローション溢れ出るんですう♪」

真桜 「そうですよ？ ん、あん♪ 私のおまんこがあ♪ おちんぽ欲しい♪ チンカスちんぽ欲しいよゝってオネダリしてるんです♪」

真桜

「こんなクソ雑魚マンコの分際でえ♪ お客様の素敵なおちんぽを誘惑して申し訳ありません♪ で・す・が・あ♪ これも元をただせばお客様が悪いんですよお？」

真桜

「お客様があ♪ あん♪ はあ、んん♪ 受付嬢である私を呼び出して、こゝろなくっさいチンカスちんぽを嗅がせてゝ舐めさせてゝおちんぽミルク飲ませるから〜♪」

真桜

「おちんぽに耐性がない私のザコザコメスマンこはあ♪ お客様のおちんぽで……いえ、お・ち・ん・ぽ・さ・ま・ま・に〜♪ メロメロなんですう♪」

真桜

「ほ〜ら♪ 香ってきませんかあ？ メスマンコの発情したフェロモンが♪ 下品にマン汁垂らしておちんぽ様に媚びてるんですう♪ おちんぽ様〜♪ おちんぽ様あ〜〜って♪」

真桜

「このおまんこの洪水を止めるには、やはりおちんぽ様で栓をしていただくしかありません♪ とう事で♪」

真桜

「お客様♪ どうか♪ このチンカスおちんぽ様で、とろっとろの発情まんこ味わってくださいませ♪」

真桜

「子宮引っ張り出すくらい激しく突いていいですか
らあ♪ はい♪ オナホを突き破ってダメにし
ちゃうくらいのお気持ちで、私を……真桜のおま
んこを犯してください♪」

真桜

「きゃん♪ お、お客様あ♪ って、はぶっ！
ん、んん♪ んちゅ♪ ちゅ……ちゅ、ちゅ♪
んちゅ♪ ちゅ、ちゅぶっ！ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「ぶはっ！ ああん♪ お客様ったらあ♪ そん
な、急にキスするなんて……ん、ちゅ♪ ちゅ…
…ちゅ♪ 私、嬉しくなっちゃいますよお♪」

真桜

「んちゅ♪ ちゅ♪ ちゅううううう♪ ちゅ♪ れ
ろれる♪ んちゅ♪ ちゅ……れうう♪ れろれ
ろお♪ れろれるうう♪ んちゅ♪ ちゅ、
ちゅううううう♪ ちゅ♪」

真桜

「はあ、ん♪ あ、はあう♪ ふうううう♪ えへ
へ♪ 大丈夫です♪ そんな興奮しなくても、お
まんこは逃げませんから♪」

真桜

「ほくら♪ ここです♪ 私の処女おまんこは、こ
ううう♪」

真桜

「あ♪ きました♪ おまんこに勃起おちんぽ当
たってえ♪」

真桜

「はい、そのまま♪ ん、あん♪ 腰を前に、押し込んでえ♪ んあ♪ あ、ああ♪ はいい♪ お客様あ♪ 来てえ♪ おまんこにおちんぼ様入れてください♪」

真桜

「んあ♪ あ、あ、あ……んっ！ んあああゝゝ……！」

真桜

「あひゃ！ ん、んん！ はふっ！ はあ、はあ、はあ、はあ……ん、んん♪ はふううう……え、えへへ♪ お、おちんぼ様、入っちゃいましたあ♪ えへ♪ えへへゝ♪」

真桜

「しょ、処女だったのにい、おまんこ思いつきり貰かれたのにい……ああん♪ 全然痛くないですう♪」

真桜

「はあ、はあ……んん♪ 寧ろお♪ お客様のおちんぽが想像以上に気持ち良くて、ん、あん♪ 私、本気でこのおちんぽ好きになっちゃいましたあ♪ 私を気持ちよくしてくれる、世界でたった一つのおちんぽお♪ おちんぽ様あ♪」

真桜

「んあ♪ はあ、はあ……♪ お客様あ♪ どうかあ♪ どうかお願いいたします♪ このまま、ん、ああん♪ おちんぽでゝ♪ おまんこトトロト口にしてくださいい♪」

真桜

「マンカスとマン汁で厭らしくトッピングされた下品なおまんこお♪ お客様だけに提供する処女おまんこお♪ どうかあ♪ 召し上がってくださいいい♪」

真桜

「ん、んああ！！ んあ！ あ、あああ♪ あ、あ、あ、ああ♪ やあん♪ あ、んああっ！ これえ♪ おまんこパンパン凄いいれすう♪ ん、ん！ ああん♪ お客様あ♪ セックスう♪ とつてもお上手ですね〜♪」

真桜

「はあ、はあ♪ おちんぽの力リが、んん♪ イイ所引つかかってえ♪ ん、ああ♪ やあん♪ ん、はあ、はあ♪ んへへ♪ 敏感な所擦られてエッチな声出ちやいますう♪」

真桜

「ん、あ、あん♪ やあ……お客様〜♪ そんな、ん♪ ダメですよお♪ 見ちやダメですう♪ ん、んん！ 今の私、気持ちよすぎてえ♪ ん、や、ああん♪ やあ♪ 顔お♪ エッチになつてますからあ♪」

真桜

「ん、きや、あん！ はあ、はあ♪ んひやあ♪ やあ♪ またおちんぽ激しくなつれ……あん♪ やっ、あ、あ、あ、ああ♪」

真桜

「はあ、はあ♪ ん、やあ♪ さつきまで処女だったのにい♪ ああ♪ お客様のおちんぽでおまんこ壊れひやいましたゆう♪ んん♪ 気持ちいので満たされちやいますう♪ ん、あ、あん♪」

真桜

「はあ、はあ……ん、ああ♪ だ、ダメえ♪ んん！ す、すみませんお客様あ♪ はあ、はあ……うっ♪ も、もうう♪ んああ♪ あ、あ、あ、ああ♪ おまんこお♪ おまんこイキましゆう♪ おまんこ我慢できないれしゆう♪ んん♪ おまんこイっひやいましたゆう♪」

真桜

「んほおお♪ お！ お！ お！ おおお♪ ああ♪ イグうう♪ おまんこイグうう！ 下品にイキゆう♪ ガニ股で、イツ、きゆうううううう……！」

真桜

「んひやああああ……！」

真桜

「んああっ！ やっ！ らめええ！ おまんこお……！ 出てましゆう……！ おまんこジューズれてましゆう……！ ん、あ、あ、ああ♪ やっ♪ らめれしゆう……♪ んん♪ ああ♪ イグうう♪ おまんこイってましゆう♪」

真桜

「ん、はあ……やっ！？ お、お客様！？ お、おほおお♪ おまんこイってましゆからああ！ おちんぽお♪ おちんぽそんなにしちや♪ あ、あ、あ、ああ♪」

真桜

「んああ♪ あ、あ、あ、ああん♪ やあ♪ しゅ
ごいれすう♪ んん♪ おまんこ気持ちいいれ
しゅう♪」

真桜

「はあ、はあ♪ ふふ♪ いいですよお？ んん♪
おまんこオナホみたいにしてくださいい♪
ん、ああ♪ お客様の好きなようにい♪ いっぱ
い味わってくださいい♪」

真桜

「あ、あ、あ、あああ♪ 真桜のおまんこはもうお
客様の物ですからあ♪ ん、お客様んお思うがま
まにい♪ ああん♪ ズボズボズボして♪
おまんこ壊しちゃって下さいい♪」

真桜

「はいい♪ いいんですう♪ 子宮の奥もお♪ 私
を孕ませるつもりでいっぱい♪ ん、あ、ああ
♪ 沢山どぴゅどぴゅしてくださいいですか
らあ♪」

真桜

「はあ、はあ♪ んん♪ いっぱい♪ いっぱい愛
してください♪ 私を……オナホおまんこを♪
大好きな恋人のように♪ 自分の物だって♪ 誰
にも渡さないんだって♪ 子宮に精子で教え込ん
で下さい♪」

真桜

「はあ、はあ♪ はいい♪ そこお♪ んん♪ そ
こですう♪ 赤ちゃんのお部屋あ♪ お客様しか
入れない……んん♪ お客様の特等席ですう……
♪ って、ひゃわあっ!？」

真桜

「んほおお♪ お、お、お、おお♪ お客様あ
♪ ああ♪ 子宮コンコン♪ ああ♪ 激しい
♪ 大好きピストン激しいですう♪ ん、あ、
あ、ああ♪」

真桜

「ああ♪ そんなにされるとお……♪ ん、んふう
♪ 子宮降りてきますう♪ 赤ちゃん作る準備出
来ちゃいますう♪」

真桜

「ん、あ、あ、あ、ああん♪ やあ♪ お客様あ♪
子宮押しつぶすみたいなピストン♪ ああ♪
痛いのに気持ち良くてえ♪ ん、やあん♪
おまんこ壊れちゃいますよお♪ ん、あ、ああん
♪」

真桜

「はあ、はあ、はあ、はあ♪ おまんこ壊されるう
♪ おまんこお♪ ああ♪ お客様に赤ちゃん産
めなくされちゃいますう♪」

真桜

「あ、あ、あ、ああ♪ だ、ダメエ……♪ んん♪
気持ちよすぎて意識が♪ ん、ああ♪ おまん
こと一緒にイキますう♪ どこかいつひやいま
しゅうう♪」

真桜

「ひゃっ！ お、お客しやま♪ はぶっ！ ちゆ♪
んちゆ♪ じゆる♪ じゆるるるっ！ んちゆ
♪ れろれる♪ れろ……ん、ちゆ♪ じゅぶ
ぷっ！ んちゆ♪ ちゆ、れろ♪ れろれる♪
ちゆ、んちゆ！」

真桜

「ぶはっ！ はあ、ん、やつ！ あ、あん♪ やあ♪ お客様のキスう♪ んん♪ きしゅ気持ちいいれしゅう♪ ああ♪ もっとしてください♪ ん〜ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「んむうっ！ ちゅ♪ ちゅ！ んじゅぶっ！ れろ、れろれろ……ん〜ちゅ♪ じゅるっ！ じゅるる！ ちゅぶっ！ ん、ん！ ちゅ♪ ちゅぶ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「んちゅ♪ じゅるる♪ ちゅぶっ！ ん、ちゅ♪ れろ……れろれろ……ん、れ〜……じゅる♪ じゅるるる〜♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅう〜……ぶはあ♪ はあ、はあ♪」

真桜

「んあっ！ あ、ああん♪ やあ♪ おまんこもお♪ お口まんこもお♪ んほお♪ きしゅう♪ んん♪ 同時きしゅ気持ちよくってええ♪ ん、んああ♪ あ、あ、あ、ああ♪ だ、だめええ♪ またイグうう♪ おまんこお♪ おまんこイっちゃいますうう♪ ん、んん！」

真桜

「はっ！ ひゃああああん…！」

真桜

「んああ〜♪ お、おお♪ おまんこイってましゅう……♪ ん、はあ、はあ♪ ああダメ……♪ お漏らし止まらない♪ あうう……♪ お漏らし止まらないですう……♪」

真桜

「あ、ああ♪ お客様あ♪ 好きですう♪ 激しく私を使ってくれるお客様あ♪ 素敵ですう♪」

真桜

「ん、ああ♪ はあ、はあ……私い♪ おまんこ専門店のオナホでしかないのにい♪ お客様に対してこんな、告白みたいな真似なんて♪ ん、んん♪ おこがましいメスですけど♪」

真桜

「でも好きです♪ チンカスちんぽで犯してくれるお客様の事が大好きになんですう♪」

真桜

「はあ、はあ……♪ んん♪ 好きい♪ 大好きです……お客様あ♪ ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅぷっ！ んちゅ♪ ちゅ、ちゅうう♪ ちゅれゝゝろれる♪ んじゅ♪ じゅぷ♪ ちゅれろれる♪ ちゅ、ちゅゝゝ♪ ちゅ♪」

真桜

「はああ♪ んちゅ♪ れろれる♪ スキイ♪ お客様あ♪ ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れろれる♪ れちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

真桜

「どうかこのままあ……♪ んん♪ キスしながら犯してくださいい♪」

真桜

「体の内からも外からも、お客様の温もりに包まれながら犯されたいんです……♪」

真桜

「今まで誰にも愛された事のない、お客様だけのメスの体……どうか、他のオスが寄ってこないよう、お客様の匂いでマーキングしてください♪」

真桜 「一生お客様の所有物だって、私の子宮に分からせてください♪」

真桜 「ああ♪ お客様あゝ♪ 好きです、愛しています♪
んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜 「じゅるる♪ れろ♪ れろれろれろれろ♪ んゝ
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れゝゝ♪ じゅるる♪
じゅるるるゝゝ♪」

真桜 「ん、んふう♪ お、おお♪ やあ♪ お客様あ
♪ ああ♪ 上も下も一つに繋がってえ♪ キス
しちやってますうゝ♪」

真桜 「ん、はむ♪ んちゅ♪ じゅるる♪ ん、んん♪
もつろお♪ もつろ舌らしてくだひやいい♪」

真桜 「んん♪ じゅるる♪ じゅるるるゝゝ♪ んちゅ
♪ んん♪ れゝ♪ んぷっ！ じゅぷぷっ！
んぷっ！ ん♪ んん♪ れゝろれろれろ♪
ん、ちゅ♪ じゅるる♪ んちゅ♪」

真桜 「はあ、はあ♪ ん、ああ♪ え、えへへ♪ お客
様ったらあ♪ ん、ああん♪ やあ♪ キスした
途端ピクピクおちんぽ跳ねてえ♪ はあ、はあ♪
ああ♪ キスう♪ 気に入っていただけてるん
ですねゝ？」

真桜 「ああ♪ 嬉しい♪ んゝ……ちゅ♪ んちゅ♪
ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「はあ♪ こんな唇でいいのでしたらいくらでも
貪ってくれていいですからあ♪ ん〜ちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「こうやってえ♪ お店でプレイしてる時でもお♪
ん、ああん♪ 受付にいる時でもお♪ オフの
日でもお♪ 人前でもお♪」

真桜

「ん、あ、ああん♪ ふ、ふふふ♪ お客様ならい
つでもキスしてくれていいですからあ♪ ああ♪
だからこれからもいっぱいキスう♪ エッチな
キスしてくださいい♪」

真桜

「大好きな人とのキスう♪ 気持ちいいキスう♪
ん、ん〜…ちゅ♪ んちゅ♪ じゆるる♪
はぷっ！ ん、れ〜ろれろれる♪ ん、ちゅ♪
じゆるる♪ ん、ちゅ〜♪ ちゅ、ちゅ♪」

真桜

「ん、あ、ああん♪ やあ♪ お、おお♪ そ
こお♪ 子宮う♪ ん、ああ♪ チンカス塗れの
亀頭があ♪ ああん♪ やあ♪ 子宮とキスう♪
お、おお♪ キスしちやってましゅ〜♪」

真桜

「はあ、ああん♪ やあ♪ 卵子早く出せって言っ
てるみたいで〜♪ んん♪ コンコンノックう♪
赤ちゃんのお部屋ノックされてましゅう♪ お
まんこ虐められてますう♪」

真桜 「ん、あ、ああ♪ お客様あ♪ お客様お客様お客様お客様あ〜♪ ん、んん〜……ちゆ♪ ん、ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

真桜 「はあ、はあ♪ ああ♪ お客様あ♪ 好きです…
…大好きです♪ ああ♪ ん、あ、あ、あああ♪
愛してますう♪ 愛しておりますう〜……♪」

真桜 「ん、ああ♪ もう気持ちが抑えられません…
…♪ 好きな♪ しゅきい…♪ ん〜ちゆ♪ は
ぷっ！ んちゆ♪ じゆるる♪ じゆるる！
んちゆ♪ じゅぷっ！ じゆるるるる〜
〜！！」

真桜 「ん、ちゆ♪ れる……じゅぷっ！ んちゆ♪
じゅぷぷっ！ ん、れ〜♪ じゆるる♪ ん
ちゆ♪ れろ、れろれろれろ♪ んちゆ〜…
…ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

真桜 「ん♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪ ん、ああん♪
やあ♪ お客様あ♪ あ、あ、あ、あああ♪」

真桜 「ん、やあ〜……♪ も、もう……ま、また来るう
……♪ ん、ああ♪ またおまんこお♪ 気持ち
よすぎてお漏らし来ちゃいますう……♪」

真桜 「はあ、はあ……お、お客様はどうですか？ ん、
あ、ああ♪ おちんぽお♪ イキそうですか？
おまんこプールでイっちゃいそうですか？」

真桜

「ん、はあ、はあ、はあ、はあ……♪ ああ♪ い
いですよお♪ ん、ああ♪ このまま、ああ……
♪ 私のおまんこお……♪ 子宮の中に出してく
ださい……♪」

真桜

「ん、んふう……♪ 私もお♪ お客様の射精に合
わせてイキますからあ……♪ 今度は一緒にイカ
せてくださいい♪」

真桜

「ん、ひやうう!? んあ! あ、あ、あ、ああ……
……!! お、おおお♪ お、お客様あ……!!?
ん、んひい……!! お、おおお♪」

真桜

「そんなあ♪ おちんぽ激しっ! ん、やあ……
……!! おお♪ お、お、お、お、お、お、
おおお♪」

真桜

「そんな強く突かれたら、ん、ああ♪ あ、あ、
あ、ああ!! もうダメ……!! やっ! あ、
ああ……!! 我慢できましえん……!! これ、お
漏らしい……!! まんこ緩むう……!! おおお♪
漏らしちゃうう……!!」

真桜

「はあ、はあ……!! ん、あああ……!! お、
おおお♪ お、お客様もお♪ 一緒にい♪ ああ
♪ イ、イってくらひゃい……!!」

真桜

「私もお♪ 下品にい♪ メス声出しながらイキま
しゅからあ……!! ンああ♪ あ、あ、あ、
ああ♪ メスのお漏らししますからあ…
……!!」

真桜

「お客様も一緒にい♪ ああ♪ おまんこにい♪
んん♪ おまんこにいっぱいおちんぽみりゆ
くうう……!! ああ♪ ぴゅっぴゅしてくら
ひゃいい……!!」

真桜

「あああ……♪ お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
♪ お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
♪」

真桜

「んああ♪ ああ♪ 無理い……!! もう無理で
すう……!! ああ♪ ムリムリムリムリム
リムリムリ♪ もうイク♪ まんこイク♪ イッ
ひやいますう♪」

真桜

「んあああ! あ、あ、あ、ああ♪ イグう!
イグイグイグイグイグイグうう!!」

真桜

「イっきゅうううう……!!??」

真桜

「ん、つきゅうううう……♪」

真桜

「は、はひい……!! ンああ♪ あ、ああ♪
出てりゅ♪ おちんぽみりゅくう……♪ ン、
ああ♪ 出てますう……♪ 注がれてますう
♪」

真桜

「ん、んああ♪ あ、あひい……♪ ああ♪ お、お漏らしい♪ 精液注がれながらの潮吹きお漏らしい……♪ ああ♪ 気持ちいいれしゅう……♪ ん、ああ♪ お客様あ♪ 好き……♪ 好きですう……♪」

真桜

「ん、はあ、はあ……お客様あ♪ キスう♪ キスしてくらひやいい……♪ 大好きキスう……♪ 愛してるのキスう……♪」

真桜

「あ……♪ ん……ちゅ♪ はぶっ……んちゅ♪ ちゅ……れろ……んちゅ♪ じゅぶっ……ん、ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

真桜

「ん、えへへ♪ 優しいキス、嬉しいです♪ ああ♪ お客様あ……♪ 気持ちいい……♪ 好き……♪ 大好きですう……♪」

真桜

「ん……はあ、はあ……はふう……♪ って、えへへ……♪ すみません……ちよっと気持ちよすぎて腰が抜けてしまったみたいで……♪」

真桜

「ん、んん……はふっ……ああ……ダメですう……気持ちよすぎて、ん、あん♪ はあ、はあ……起き上がれませくん……」

真桜

「ん、そうですね……起き上がれないなら仕方ありませんよね……それなら……」

真桜

「ん、んん……んゝ……えへへ♪ お客様……♪
まだ時間はありますから、どうかこのまま……
ん♪ 精子が泳いでるおまんこプールであったま
りながら、ゆっくりしていつてください♪」

真桜

「そして、もし私の事を……私のおまんこを気に
入っていただけでしたら、是非またご来店いた
けると……そのう、はい♪ すっごく嬉しく思
います♪」

真桜

「私のお客様だけの専属おまんこですから♪ それ
以外の方には決してこのおまんこは味わわせま
せんから♪」

真桜

「それに……えへへ♪ 呼んでくださればお店の外
でもご奉仕したいので、後で連絡先も交換しま
しょう♪」

真桜

「ん、はあ……♪ お客様……好きです……大好き
です♪ おまんこしか取り柄のないただのメスマ
んこですが……これからもずっと愛してください
ね♪ ん……ちゅ♪」
